

1. 主題名 「本当のやさしさとは」 内容項目 B－(9)

2. 資料名 榎本博明『やさしさ』過剰社会 人を傷つけてはいけないのか(PHP新書)より抜粋・中略

3. 主題設定の理由と資料の概要

本学級の生徒は、最後の行事であった合唱コンクールの取り組みの中で、ひとつの目標に向かってよりよい合唱をつくるために、互いにアドバイスをし合うことを大切にしてきた。また、ひとつのテーマを与えると仲間と分け隔てなく活発に話せる雰囲気がある。ただし、自分の考えを押し通すことが多く、他者の考えを取り入れたり、別の視点から自分の考えを再考したりすることには不足を感じる。さらに、先に意見を述べる生徒に、自分の意見を述べないまま同調する生徒もやや見受けられ、社会生活の中でコミュニケーションをとるうえで自分の話す態度について省みようとする姿勢を身に付けていく必要がある。

本資料は、内容項目B－(9)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」をねらいとしている。中学校3年生の今は、進路決定の三者面談を目前に控え、自分の今後の生き方や進路について向き合わざるを得ない。親や教師をはじめとする周囲の支えに気付き、感謝の念を持ち始めると同時に、周囲の声に対して無責任さや鬱陶しさを感じやすい時期でもある。逆に相手に対してよかれと思って言ったことに、相手は良く思っていなかったなどの経験も重ねる時期でもある。よりよい人間関係を構築する素地を育むため、他者とのかかわりの中で、受け手側の立場や状況を踏まえて言動を考えようとする姿勢や、目に見えない思いを忖度する態度を養うことは重要であると考え、この主題を設定した。

それらの態度を養うために、本題材で特に重視した教科で育てる資質・能力は、「その思考や行動が、自分や他者や社会へどのような影響を与えたり、結果をもたらしたりするかを広く想像しながら、すすんでよりよい判断や解決の仕方を探っていく態度」である。かかわる人物の言動の裏にある思いや、その言動をするに至った背景に思いを巡らせ、自分自身の人とのかかわり方を考えさせていきたい。様々な社会的立場や関係性が存在すること、その中でも個性が存在することを、複数の資料を用いることで実感し、それぞれの視点から「本当のやさしさ」という命題を見つめたときに、自分の答えが生まれると考える。たとえ本時の中で答えが出なくとも、今後の実生活において「やさし」い行動だったのかを立ち止まって思考する態度が養われると考える。

資料について

本書は、心理学博士である筆者の調査結果や、大学における学生とのやりとりを例として挙げ、現代日本に見られる「やさしさの勘違い」について警鐘を鳴らしている。「やさし」と一般に言われている行動や言動が、その人のためになっていないことがあるということを、立ち止まって考えることができる資料である。今回は以下の4つの場面とした。

A 友達…友達とかかわる中で素の姿をさらけ出すことや、本音を語るができない若者を例としている。

B 恋人…恋人にするなら何でも許容してくれる人がよいという社会風潮を例としている。

C 親…なんでもしてあげる親や厳しく叱らない親について、フランス・アメリカの父性教育と比較しながら例としている。

D 上司と部下…厳しさに対する免疫のない部下の姿と、それに対応する上司の接し方を例にしている。

4. 授業の実際

(1) 目標

「やさしさ」と言われる行動や言動について、相手の立場や背景に思いを巡らせることで、よりよい人間関係を構築しようとする態度を育てる。

(2) 過程

学習活動【学習形態】	◇発問 ◆中心発問 △指示・説明	○教師の手立て
<p>1. 資料を読む。【個】</p> <p>2. それぞれの資料から「やさしさ」について考える。 【同じ資料を読んだグループ】</p> <p>3. それぞれの資料の「やさしさ」を通じて考えたことをもとに「本当のやさしさ」とは何か話し合う。【4人グループ】</p> <p>4. 本時を振り返る。【個】</p>	<p>△4つの資料を、班員で分担して読みましょう。</p> <p>◇それぞれの資料にはどんな「やさしさ」が紹介されていますか。それについてどう思いますか。</p> <p>△自分のグループの人に、それぞれの資料から考えたことを報告してください。</p> <p>◆「本当のやさしさ」とは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当のことを言ってくれた方が自分にはいいが、言い過ぎないように配慮すること。 ・された側が優しいと感じること。 ・立場によってやさしさの定義がちがう。相手のことをよく知る必要がある。 <p>△本時の中で自分が考えたことを書きましょう。</p>	<p>○本時の考えるテーマを自覚させるために、身近な「やさし」い姿を想起させる。</p> <p>○価値観や認識の違いが明らかになる対話を生むために、それぞれの資料に見られる問題点とは何かを共有させる。</p> <p>○資料を読まない他グループの生徒に伝えるために、ホワイトボードを使って思考の過程を記録させる。</p> <p>○いろんな立場のいろんな「やさしさ」に目を向けて議論させるために、各資料で意見が分かれた点を話題の中心とさせる。</p> <p>○4つの立場が、社会生活において経験する可能性があることを想起させるために、経験や想像も含めて意見を持った生徒に全体で発表させてからグループ活動に入る。</p> <p>○本時で考えたことを振り返るために、導入で生徒が考えた「やさし」い姿は本当に「やさし」いのか改めて判断させる。</p>

(3) 評価とその方法

よりよい人間関係を構築するために、「やさしさ」の表れた行動や言動をとる際に、相手の背景にある思いや立場、その可能性を考えているかを、活動2、3の話し合いの様子や、活動4の記述内容から評価する。

(4) 生徒の振り返りから

- ・優しさといっても甘いだけでは優しくないし、厳しさもときには愛情という優しさであることがわかった。
- ・良かれと思ってやっていることが、ときに相手の迷惑になっていることや、相手に不快を感じさせることがあるということがわかった。しかし、のちに相手のためになると思うことはちゃんと説明してそのとき不快に感じてもしてあげようとも思った。
- ・「本当のやさしさ」という定義をつけるのは難しいが、相手が優しいと受け取れるかどうかだと感じた。
- ・いろいろな立場があるからこそ、相手のことを思いやったり尊重したりする必要がある。自分が上司になったときには、甘やかすすぎず、理不尽でもない、後輩をしっかり育てる人になりたい。
- ・身近な人が自分にかけてくれる言葉の背景を知ろうとすべきだと感じた。今は親や先生の言葉はうるさいと思うときがあるが、振り返ると大事なことばかりだと思う。そういうのを理解できるようにもっと勉強しなければならない。
- ・必要なのは信頼だと思った。厳しい言葉をかけても、受け入れられるかどうかはその人との関係による。信頼される人になりたい。

(5) 授業を終えて—考察—

実践を通しての成果(○)と課題(▲)は以下の通りである。

- 行動の背景にある相手の思いに目を向けることができた時間になった。うわべだけや、印象だけで判断するのではなく、一歩立ち止まって考えたうえで人間関係を構築しようとする態度が多くの子の振り返りの中に見られた。親や上司など、「やさしさ」の受け手としての視点で考える生徒以外にも、「やさしさ」の与え手側の視点に立って思考でき、価値に迫れたと考える。
- ▲いろいろな「やさしさ」の在り方が示されたことで、体験を語ったり、これから経験するであろうことを想像したりする姿が見られた。しかし、経験がないことを想像上のみで語ることは難儀であった。たとえばフランスと日本の風潮の違いに言及はしていても、なぜ日本がそのような風潮なのかなど、「やさしさ」の背景にまで目を向けられると深まりが出た。また、用いた資料が多く、4つのうち1つの資料についてしか思考できなかったため、多くの視点から思考させることを考えると、資料の見せる順番や時間配分を再考しなければならなかった。
- ▲ 本時の中で生徒が価値を見出したのは「相互理解」よりも「思いやり」に近いと思われる発言や感想が多かった。「やさしさ」という言葉は抽象的で、親切、思いやり、寛容、生命の尊重などと関連することが多い。授業者が特に迫らせたかった価値へと向かえるような発問が多面にわたって必要だった。
- ▲ 「本当のやさしさ」をテーマとして議論の深まりを生み出すには、視点を定める必要があった。たとえば、「一時的なやさしさと長期的なやさしさ」や「うわべか真心か」や「受け手の状況」といったものが考えられる。定めた視点で1つの資料を読み、他の資料と対比させて読んでみたときに、それぞれの考えが述べやすくなる。